



上智大学 短期大学部

SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和元年(2019年)6月10日

通信 第95号

編集・発行 上智大学短期大学部

2019年度 第47回入学式

2019年度は282名の新入生を迎え、第47回上智大学短期大学部入学式および入学感謝ミサが2019年4月3日(水)に行われた。

入学式は2年生の田邊沙彩さんによる聖書「タラントンのたとえ」(マタイ25:14~27)の朗読により開始された。

山本浩上智大学短期大学部学長より式辞があり、本学は、キリスト教ヒューマニズムに基づく教育を理念とし、「Men and Women for Others, with Others」(他者のために、他者とともに)という教育精神を持っている。キリスト教ヒューマニズムに基づく教育を通して、他者に寄り添い、他者のために尽くす人になってほしい。さらに、大学での学びは、自ら問題を発見し、その答えを文献の考察や分析、意見交換などを通して探し求めていく姿勢が求められる。本学での2年間で物事を深く考え、適切な判断ができるよう、自分の世界を大きく広げ、他者と出会い、他者を知り、他者とともにあることの意味を考えてほしいと述べた。

佐久間勲上智学院理事長からは、学院の教育精神である「Men and Women for Others, with Others」(他者のために、他者とともに)という一見抽象的に聞こえるこの短い言葉には、実は上智を象徴する大切な意味が集約されている。この言葉が皆さんの心に呼び覚ますイマジネーションはこれからの学びを豊かにするはずだ。人生のより良い選択をするときに、人は将来を想像して自分が引かれるものを選び決断する。イマジネーションは人生選択の基礎なのだ。「Others」



とは自分とは異なるが自分と同じ尊敬をもち、私が尊重されるように尊重されるべき存在である。価値観や文化が異なってもそこに共通性を見だし、専門的な英語を駆使して諸問題の解決に向けて取り組み、周りの人々、世界の人々に心を開いてほしいとの祝辞が送られた。



ソフィア後援会会長の新美曉子氏からは、今春卒業されたご息女の学生生活を通して、上智短大は先生と学生の距離がとて近く、一人一人の将来の夢の実現に向け、サポートをしてくれる大学であることを実感している。新入生の皆さんにとって夢と希望に溢れる2年間になることを願うとの祝辞が送られた。

新入生代表の金藤里佳さんからは、「他者のために、他者とともに」の教育の精神に従い、キリスト教ヒューマニズムのもと、幅広い教養と国際性を修得すべく、学業に精進するとの宣誓が行われた。

在学生代表の八木彩花さんからは、先日引退されたイチロー選手の「同じ練習をしていても、何を感じながらやっているかで、全然結果は違ってくる」という言葉を引用し、大学で目標を見つけ、そこに向かっていくには、常に感じ、考えていくことで得られるものが変わってくる。何事も初めから恐れず、考えや意思を持って、多くのことにチャレンジしてほしいとのメッセージが送られた。

学長賞授与が行なわれ、林まりなさんに授与された。その後、全員で校歌を斉唱し、閉式した。

入学式後には、有志による在学生父母団体、ソフィア後援会による新入生ご父母歓迎会が行われた。

2019年度 新入生オリエンテーションキャンプ

2019年度新入生オリエンテーションキャンプは4月8日(月)から9日(火)にかけて、例年通り伊豆の天城山荘で実施されました。新入生269名、2年次生のオリエンテーションキャンプ学生リーダー29名のほか看護師、カウンセラーを含む教職員が参加しました。

英語科長の永野良博先生の挨拶で始まり、ワジラ ナンベツト神父様による初めの祈り、教員を交えたグループ集会后にバスで天城山荘に向かいました。到着後は聖堂で学長の山本浩先生の講話と教職員紹介がありました。その後グループごとに行うグループ・パフォーマンスの準備があり、新入生が意見を出し合っ出て出し物を決め、熱心に練習に取り組んでいました。夕食後のロビーは一人暮らしの集いでにぎわい、その後学生リーダー・教員とのQ&Aタイムにも新入生は積極的に参加して、大学での学び、課外活動、進路などについて熱心に質問をしていました。2日目は聖堂でのパフォーマンス披露がありました。各グループとも短い時間ながら協力しあって準備をすすめ、本学らしく多言語や方言を効果的に使ったものも複数ありました。ダンス、合唱、クイズ、コントなど息のあったパフォーマンスは見る側の新入生も巻き込んで、熱気あふれる時間となりました。

学生リーダー長の野中琉衣さんのコメントにあるように解散時にはみな笑顔で、キャンプの目的である友達作りと教職員や先輩に気軽に質問できる雰囲気作りは達成できました。これも学生リーダーたちのおかげです。参加された教職員、スタッフの方々と天城山荘の方々のご協力にも感謝申し上げます。最後に、諸事情でキャンプに参加できなかった新入生向けのオリエンテーション・ミーティングが後日SLセンターで実施され、先輩や教員との交流が行われました。ここでも学生リーダーたちの協力と活躍があったことを申し添えておきます。

進路指導・学生生活専門委員会 学生生活担当委員 森下園



学生リーダー長から 学生リーダー長 野中琉衣

4月8日(月)、入学式を終えた新入生を迎えて、私たちはオリエンテーションキャンプへ出発しました。当日は小田急線の遅延もあって、集合場所には少し不安そうな新入生の顔がありました。天城山荘へ出発し、グループで食事をとったりグループパフォーマンスの練習をしたりする中で次第に緊張がとけて、ようやく新入生の明るい表情を見ることができました。最終日には笑顔で帰っていく姿を見て、学生リーダー長を務めてよかったと感じました。

準備のために数ヶ月前から学生リーダー29人と活動を始め、当日までに何度もミーティングを重ねたからこそ学生リーダー同士の信頼関係が生まれました。教職員の方々、天城山荘の方々のサポートもあって成功のうち

に終わることができました。

新入生のみなさんの不安が少しでも軽減され、楽しい大学生活が送れることを祈っています。学生リーダー長を務め、学生リーダーたちと協力しながらオリエンテーションキャンプを行うという貴重な体験をさせて頂き、今後ここから得たことを活かしていきたいと思っています。

認証評価に向け中間時の自己点検・評価を実施しました

英語科長 永野 良博

上智大学短期大学部は2018年度末に、本学の教育上の取り組みとその効果について自ら評価する、自己点検・評価を実施し評価報告書(中間報告)を作成しました。日本の大学、短期大学は学校教育法により文部科学大臣の認証する評価機関から定期的に評価を受審することが義務付けられています。本学は2014年度に一般財団法人短期大学基準協会による認証評価を通して適格と認定され、次回は2021年度に同協会による認証評価を受審しますが、今回の自己点検・評価はその中間時に位置付けられます。そこでは前回の認証評価時の課題への対応状況、解決に向けた取り組みについて報告すると共に、今後の課題についても明らかにしています。

2018年度の自己点検・評価の内容は、短期

大学基準協会が定める評価上のテーマである「基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果」、「基準Ⅱ 教育課程と学生支援」に関わるものです。本学は1973年の創設時に定められた建学の精神を受け継ぎながら、大学を取り巻く環境の変化や社会の要請に基づきその精神を再解釈し、それを効果的に実現する教育プログラムの発展のために、改善に取り組んできました。例えば、建学の精神と強く関連するものとして、2017年4月には三つの方針(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)を改定しました。

建学の精神及び上記の方針に則り行う教育活動について、本学が自己評価を実施するための方針であるアセスメントポリシーも定めています。2018年度の自己点検・評価は、2014

年度より年次アセスメントとして本学が実施してきた自己評価の延長上にあります。アセスメントでは本学の教育活動を通して得られる多様なデータを扱いますが、それらは学生のテストスコア、学生による教員の評価、そして学生の学修成果の自己評価等の数値による量的データ、またゼミナール論文等の質的データを含んでいます。本学はそれらについて、学修成果、教育課程、教育成果、授業改善といった領域において、教務、ファカルティー・ディベロップメント、学生生活・進路、地域連携・サービスラーニングという視点から検証し内部質保証に努めています。そして2018年度実施の自己点検・評価に基づく報告書は、2019年6月に本学ホームページで公開しました。

表現力と伝達力を鍛える私たちの英語教育

教務専門委員会委員長 神谷 雅仁

現在、日本における英語教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えようとしています。その転換は小学校から大学まで、およそすべての段階における英語教育を巻き込み、これまでの「インプット理解のための英語」から「アウトプットで伝えるための英語」に大きく舵を切る、過去に類を見ない質的転換となりそうな模様です。例えば、英語教育の早期化を、小学校5、6年生に対する英語の教科化で実現し、中学校・高校の英語教育においては、英語によるコミュニケーション能力の育成がその成果の柱と位置づけられました。さらに授業は原則、英語で行うことが定められました。また大学入学試験には、民間の英語4技能試験が導入されることとなり、各大学は「国際競争力」や「グローバル人材育成」などの基準により評価されるため、学生たちを国際人に育て上げるべく、外国語(主に英語)によるコミュニケーション能

力向上に一層の力を注いでいます。

もちろんこのような動きには、訪日外国人数が年間3千万人を超え(2018年)、東京オリンピック・パラリンピックが間もなく開催されるといった外的要因がいわば社会の要請となって後押ししている面もあり、日本全体で英語教育の方針が大きく変わりつつあります。このように世間でアウトプットへの志向が高まる中、本学ではかなり以前から英語学習のインプットとアウトプットの両輪を鍛えるためのカリキュラムを作り、学生たちはself-expression(自己表現力)やcommunicative skills(伝達・意思疎通のための技能)を実際の言語使用の中で学び、そして実践しています。

例えば学生全員が履修する「必修英語Ⅰ～Ⅳ」では、あるテーマに関する知識や情報を文字(reading)と音声(listening)で理解した後、それに対する自分の意見や疑問・課題をグルー

プ内でディスカッションしたり、また自分が感じたことや調べたことをスピーチやプレゼンテーションで聴衆に対して英語で伝えたりと、日々の授業の中で英語運用力を鍛えています。また春学期にはクラスごとにあるテーマに関する英語のポスターを作成し、それを仲間とともに英語で発表するSophia Junior English Festaという学校行事も催されます。さらに昨年度から今年度にかけては、TOEIC®試験のスピーキング・ライティング対策として英語スキルズ科目を計3科目、新規に開講しています。

このように、本学英語科では英語の4技能向上、アウトプット重視、そしてコミュニケーションに資する言語教育にはすでに移行済みであり、また多くの成果を上げていると言っても過言ではないでしょう。今後もこれまで以上に学生と教職員が一体となって「英語の上短」に磨きをかけていきます。

2018年度 学長賞

2018年度学長賞は、テニスサークル並びに林まりなさんに授与された。

テニスサークルは2018年8月に開催された全国私立短期大学体育大会テニス競技団体戦において3位入賞を果たした。この活躍は本学の課外活動のさらなる発展に資すると評価された。

林まりなさんは、本学入学後にボルダリングサークルを創設し、学内での競技普及に尽力し、また自身が選手として、2017年度第21回JOCジュニアオリンピックカップ大会のジュニア女子リードクライミングにて3位入賞、第73回国民体育大会の山岳競技に福島県代表として出場した。林さんの活躍は本学の課外活動活性化に大いに貢献したとして賞された。



以下、林さんコメント
「この度学長賞を受賞でき、大変嬉しく思っています。私がこのような成果を出せたのは、この大学の先生や友人、そして家族の支えがあったからです。今後もトレーニングで自分を更に磨き、そしてサークル運営にも全力で努めていきたいと思っています。」

2019年度 学業優秀賞

2019年度学業優秀賞の授与式が5月21日(火)、4号館第2会議室において行われた。受賞者は、1年次の成績を基に、浅沼愛香さん、橋口桜さん、三宅千尋さん、嶋原=ルナ=クリステルさん、杉原有香さん、種市ひなたさん、八木彩花さんの7名の学生が選ばれた。授与式では山本浩学長から賞状と副賞として5万円分の図書カードが贈られた。

受賞した学生は名誉ある賞を授与された喜びと感謝の気持ちを述べ、今後の抱負を語った。学長は残りの一年間も勉学に励んで活躍されることを期待すると受賞者を激励した。教職員に祝福され、授与式は和やかに終了した。



2019年度のソフィア会活動内容について

上智大学短期大学部ソフィア会は皆様からの会費によって運営されています。2019年度の活動内容をご紹介します。ぜひ参加ください。

2019年度の活動内容

5月	● 5月26日(日) 四谷キャンパスにて、上智大学短期大学部ソフィア会総会、卒業生のためのホームカミング、山本浩学長の記念講演会 開催
6月	● 上智大学短期大学部ソフィア会奨学金授与式参加
10月	● 10月26日(土) SJ祭開催中の秦野キャンパスにて、卒業40周年と25周年をお祝いする、ルビー祝(5期生)・銀祝(20期生)を開催。
11月~1月	● 「同窓会寄付講座キャリアプランニング」への支援
3月	● 卒業式出席、ジェラルド・バリー賞授与



ホームカミング 上智大学2号館408教室

3月16日 2018年度第45回卒業式・学位授与式 祝辞 平野由紀子会長

学位を授与されたみなさま おめでとうございます。ソフィア会を代表してご挨拶申し上げます。

みなさんには、これから「平成最後の」という接頭語がついてまわることでしょう。私が入学したのは昭和54年。私は5期生ですので、短期大学の創設はその5年前の昭和48年でした。振り返ってみますと、昭和は、14年間、平成は30年間あったわけで、まさに平成生まれの皆さま達が中心となってきた学校だということができるといえるでしょう。

そしてみなさまの旅立ちとともに新元号が始まります。新しい時代の初めての卒業生として、平成のレガシーを、あとに続く後輩たちに、母校に示していただきたいと思います。

これから、勉強を続ける方、社会に出て活躍される方、進む道はさまざまですが、いま、最高の女子教育を受けたみなさんは、どうぞ先輩たちが切り開いてきた道を、迷うことなく、自信を持って進んでほしいと願っています。

校歌にも歌われていますように、母校という言葉は、ラテン語で「アルマ・マテル」ですが、「マテル」はマザー、母ですが、最初の言葉「アルマ」は「学校」ではなく「育む、滋養を与える」という意味があるそうです。つまりアルマ・マテルは「栄養を与えて育ててくれた母」というのがその基の意味で、そこから「知的・人的成長を促してくれた最高学府」を指すようになりました。

これから多くの皆様は、妻として母として、女性として、家庭の中で社会において、誰かに栄養を与え、育てていく存在になっていくことでしょう。その対象は、ご家族であり、仕事であり、そして自分自身を育てていくこと、その基礎となるのが母校であります。

同時に同窓会の「アルムニ」も同じ語源になります。卒業生の集まりであるソフィア会は、母校とのつながりの中で、みなさまのこれからの人生をサポートし、そしてみなさまから支えられて育てられていく、そんな存在です。

どうぞ新しい時代の、新しいソフィア会の先頭となって活躍いただきますよう、心よりお祈り申し上げます。改めまして本日はご卒業おめでとうございます。

ジェラルド・バリー賞受賞者

井手内 咲さん

この度は、このような栄誉ある賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。

短大での2年間、ただひたすらに毎日をごすごしてきました。アルバイトや課題をこなし、編入学試験の時期には自分のしたい事を模索しつつ、常にその気持ちは自分の中にあるものか、問いかけていました。辛い時も勿論ありましたが、数え切れない方の応援があり、今の私がいると思います。

卒業式で同級生の顔を見た時、この短大に来て良かったと心から感じました。皆違った苦労や痛みを味わいながら、それを乗り越えてきた、という誇りを持って出席しているように思えました。

4月からは、津田塾大学の国際関係学科に編入します。心機一転、また新たな自分を創りあげていこうと思います。常に外に興味を向け、色々な人と出会い、互いに支え合うことを忘れずに、生活していきたいです。

ありがとうございました。



2019年度 総会・山本浩学長の記念講演会 5月26日(日)

オール・ソフィアーズ・フェスティバルで賑わう四谷キャンパスにて、当会の総会、記念講演会とホームカミングを開催しました。

2018年度決算報告はこの総会にて承認されました。山本浩学長の講演会内容はHPにてご紹介します。

上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会) 2018年度 決算報告

(2018年4月1日~2019年3月31日) 2019年3月31日現在

(単位:円)

	費目	金額	備考
収入部	前年度繰越金	22,296,338	
	2018年度収入		
	同窓会会費	2,400,000	2017年度入学者(2学年進学時納入分)
	総会及び銀祝参加費	82,000	銀祝参加費、祝状代
	寄付金預かり	30,538	バリー賞募金、被災者学生支援金
	利息	201,980	上智学院預り金利息、普通預金利息
	雑費	0	
	(2018年度収入小計)	2,714,518	
	合計	25,010,856	
	支出部	短大通信送付費用	534,911
総会及び銀祝開催費用			
通信費		518,357	総会及び銀祝案内送付費(郵送料+発送手数料)
その他		419,952	銀祝パーティー費用、銀祝記念品代など
通信費		348,568	同窓会事務局通信費(インターネット料金等)
同窓会役員活動費			
交通費		65,081	役員会会場までの交通費、会合出席時の交通費
文具及び消耗品費		14,145	封筒代、紙代、文具代、コピー代
会議費		101,013	役員会食事代、会議室代
郵送料		6,334	郵便代、宅配便など
広告宣伝費		118,560	短大ソフィア会HP維持管理費など
慶弔費		0	
交際費		0	
送金手数料		3,024	
寄附金		930,538	2018年度奨学金(90万円)、バリー賞募金、被災者学生支援金
(2018年度支出小計)	3,060,483		
次年度繰越金	21,950,373		
合計	25,010,856		

5期生ルビー祝・20期生銀祝 10月26日(土) 秦野キャンパスにて開催予定

今年度はSJ祭開催中の秦野キャンパスにて、ルビー祝・銀祝を合同にて開催します。

対象の卒業生のみみなさまには、別途ご案内を郵送させていただくほか、HPからの申込を8月頃から受付いたします。どうぞお問い合わせの上奮ってご参加ください。

2018年度 第45回卒業式・学位授与式

2019年3月16日(土)に4号館大教室にて第45回卒業式・学位授与式が行われ、227名が卒業した。山本浩上智大学短期大学部学長は式辞の中で、皆さんは本学での学びを通して、自らたゆまぬ探究心を持って物事の本質を探り、問題を発見し、その解決方法を考えるという姿勢を身に付けた。皆さんが生きている21世紀は変化が激しく、様々な情報が氾濫しているが、そのような中でしっかりと自分の考えを持ち、自立した人間として生きることが大切である。本学での2年間は皆さんが自立した人間へと成長する日々であった。上智の教育が何よりも大切にしている「Men and Women for Others, with Others」(他者のために、他者とともに)という精神をそれぞれの進路でも実践し、他者の存在を大切に、他者のために、他者とともにある人であってほしいと述べた。



佐久間勲上智学院理事長は、皆さんは在学中に様々な人と出会ってきたが、出会いは大切である。人生を左右するほどのインパクトがある出会い、また自分自身が変えられ、そのことに気づいて驚くような出会いの経験は貴重である。皆さんは英語と英語によるコミュニケーションを専門的に学び、さらに「他者のために、他者とともに」生きる人間になるために、言語や文化の多様性を理解し、地球規模の課題と自分との接点を見だし、他者との対話と協働を通して課題解決に取り組むという短期大学部教育精神を身につけてきた。これからも様々な出会いを通して、世界とそこに住む人々の現実を知り、自分のこととして共感し、人々と力を合わせて考え、行動してほしい。上智の精神がこれからの人生の歩みを導き、照らし、真に幸せな人生の喜びという恵みが与えられますようにと祝辞を送った。

次に2018年度学長賞がテニスサークルに贈られ、代表の河村多恵さんに賞状が授与された。続いて、新美暁子ソフィア後援会会長、平野由紀子ソフィア会会長からも祝辞が寄せられた。

ジェラルドバリー賞は、優秀な学業成績を修め、学内外の活動において他の学生の模範となる顕著な活動が評価され、井手内咲さんが受賞



した。卒業生代表の井出内さんは謝辞の中で、入学後、大学での学修に適応しようと懸命だった春学期を終え、秋になるとすぐに進路について真剣に考え始めなければならなかったが、自分が何をしたいのか、どうしようもなく不安になった日々や数々の試練を乗り越え、本日を迎えた自分と仲間を誇りに思う。短大での2年間は困難を生き抜く力を与えてくれた。今後も壁にぶつかった時には「他者のために、他者とともに」の精神を心に留め、歩み続けたいと思う。学生生活を支えてくれた先生方、先輩方、家族に感謝すると述べた。

最後に在学生代表の浅沼愛香さんは、小学校で英語教育支援活動を行った際、右も左もわからない私たち1年生に先輩方が的確なアドバイスをくださり、率先して授業を進めてくれたことがとても印象に残っている。本学の教育の精神を体現してくださった先輩方の姿勢を引き継ぎ、さらに新入生へと引き継いでいきたいと送辞を述べた。

2019年度入試結果

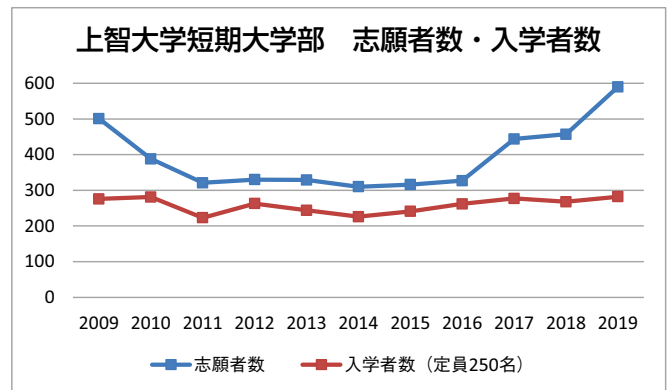
2019年度入試が2018年8月から2019年3月にかけて実施された。入学志願者の総数は過去18年間で最大となる590名となり、入学者数は282名となった(定員250名)。入試種別ごとの志願者数は以下のとおり(括弧内は2018年度との比較)。

AO 73名(+23)、推薦(指定校・公募制) 103名(-15)、特別(TEAP・英検等利用型) 82名(+43)、特別(TEAPを除く) 5名(+1)、一般 327名(+81)。

2019年度入試で志願者数が増加した要因としては、学内では学修成果を中心としたアセスメント実施体制を整備し、教育課程編成や授業改善等の改革を行い、教育の内部質保証を推進したことが認知されたこと、受験生に対する学内広報活動をトータルでマネジメントし、資料請求、来校者数の増加を維持したこと、オープンキャンパス、授業見学会などのイベントの充実、TEAP・英検等を活用した特別入試の広報に注力したことが挙げられる。また、外的要因としては、私立大学の入学定員厳格化により四年制大学の合格者が絞られたこと、2021年度の入試制度変更を目前に、2020年度入試の激化を予想し、2019年度入試で進学先を確実に決め

ようとする動きが一部であったこと、他の教養系短大が相次ぎ募集停止となったこと等が挙げられる。

2020年度入試でも引き続き本学への関心がある受験生へのアプローチ手法の最適化を進め、本学の入学者受入れの方針に定める学生像に合致する学習意欲のある学生を積極的に受入れていきたい。



聖マリア寮 感謝の集い

新緑の美しい時期となりました、皆様お変わりございませんか。

昨年、短大HPでお知らせしたように2020年3月31日をもちまして、聖マリア寮が閉寮することになりました。これまでの歩みに感謝して、お世話になった皆様方、在寮された方、卒業生の方々と共に、以下のとおり、ささやかな集いを持ちたいと思います。皆様のお越しをお待ちいたしております。

日時：2020年 3月7日(土) 11:00～ミサ 12:30～パーティー

場所：【ミサ】秦野市上大槻 聖マリア寮 聖堂 【パーティー】上智大学短期大学部 ソフィアホール

会費：2,500円(軽食 記念品等) 後日 振り込み送金

申込：メール送信 seimariadorm@gmail.com

出席される方は6月1日～10月31日までに、下記の必要事項を明記して、上記メールアドレスに送信してください。会費の納入については、銀行口座の準備が整いましたら、口座番号をお知らせいたしますので、そちらにお振込みください。

①お名前(旧姓) ②入学年度 ③参加種別(番号を記入) 1. ミサのみ 2. パーティーのみ 3. ミサとパーティ

☆感謝の集い準備委員会：田村和子(聖マリア修道女会) 平野由紀子(ソフィア会)

2020年 大学案内

2020(令和2)年大学案内を現在配布しています。各入試要項については6月下旬から順次配布予定です。

資料請求は上智大学短期大学部ウェブサイトのトップページの資料請求から。

